

市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2023年	10月	18日	(記入者) 久門たつお	
取材参加者	荒井	垣内	久門	小西	島田
	鶴田	横山			
取材対象先	黒滝村：大日堂の木造阿弥陀如来坐像				

所在地	吉野郡黒滝村中戸394				
所有者(取材 対応者)名	所有者は河分神社氏子、取材対応は 元村職員の***さん(個人情報 守秘)			連絡先 ***	
				***	
取材申込	申込先・行政名など：黒滝村企画政策課				
市町村 指定文化財	彫刻	1躯	木造阿弥陀如来坐像 1990(平成2)年2月1日指定		
	建造物	棟			
文化財指定理由	室町時代後期の制作。座高が高く、膝周りが大きめの姿は奈良彫刻界の古典的伝統を示す一方、衣文を平板に刻んだ表現は室町後期の時代性を表わしており貴重。				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	大日堂には消火器、火災感知器、火災報知機は配備・設置していない。10mほど離れた道路脇に消火ホース格納箱があり、火災発生時には近くの下市消防署黒滝分署、村消防団東部分団から消防車が駆けつけることになっている。	大日堂は普段、火気は無いので、火災の心配はないように思われる。
獣害対策	被害の有無、対策など 山間地だけにシカ、アライグマなどが出没しており、野菜畑が被害を受けることもあるが、大日堂に特に被害は出ていない。	記入者の感想 菓子等をお供えすることは行っておらず、問題はないと考えられる。
保存～継承 へ 苦勞と 今後の課題 と対策	阿弥陀如来坐像は老朽化による傷みが進んだため1973(昭和48)年に修復が行われた。寄木造りのつなぎ目が外れかかっていたり、両方の耳たぶ、螺髪の一部などで欠けた部分があり、奈良の専門家によりほぼ元の姿に復元された。お堂で5年ほど前、雨漏りが起きたので、村から補助も得て屋根瓦を一部取り替えた。再発しないか今後も注視していく必要がある。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

大日堂前のすぐ近くに暮らす高齢女性らがお堂や周辺の掃除を定期的に行なっておられ、お堂周りは綺麗に維持されている。その一方、黒滝村の人口は減り続けていて現在560人台。毎年11月3日に河分神社で行なわれる秋季大祭には昭和時代は10店ほど露店が並んで人出もあったが、最近では地元民運営の軽食店だけという。過疎化が進む地域では文化財の維持財源確保や、火災、獣害などからどのように守っていくのか、ますます重い課題となっている。

市町村指定文化財取材票《裏》

取材日	2023年	10月	18日	(記入者) 久門たつお	
取材参加者	荒井	垣内	久門	小西	島田
	鶴田	横山			
取材対象先	黒滝村：大日堂の木造阿弥陀如来坐像				

〈写真撮影許可済み〉

木造阿弥陀如来坐像

文化財（正面写真）



大日堂

文化財（角度を変えて、写真）



河分神社の拝殿（左側）と本殿（右奥）



文化財の由緒などを記入

木造阿弥陀如来坐像は同村の中戸地区にある河分神社の神宮寺、南光寺の本尊だった。檜材の寄木造り、像高56cm、台座高62cm、光背高90cmで、玉眼を使用している。像内に「天文五季三月」「大和州釜口住英尊」などの墨書銘があり、室町時代後期の1536（天文5）年に長岳寺がある釜口（天理市）の住人の英尊らが結縁者として関わった像とみられる。＝以上、黒滝村教委発行「黒滝村の仏像」から



所有社寺や地域（廃寺等）の歴史や特徴を記入

河分神社北隣にあった真言宗の南光寺は1868(明治元)年の神仏分離令で廃寺となり、本尊の阿弥陀如来坐像は神社南近くに新築された大日堂に移された。黒滝村は大峯奥駈道の西側に位置し、修験集団の一つ、当山派（本拠は京都・醍醐寺三宝院）の修験者が大峯山に入山する際、河分神社に参拝する習わしがあった。参拝に合わせて江戸時代までは南光寺、明治以降は大日堂でも祈願した歴史があるという。